

山行報告書

報告書作成

2013.10.7

山名 [山域]	餓鬼岳	目的と方法	テント泊
登山期間	8月24日 【予備日なし】	山行形態	ハイキング
参加人数	2名		

行動記録

自宅(7:00) == 豊田東IC(7:30) == 0 == 安曇野IC(10:00) = 中房温泉P(10:40 11:00) --
西大ホラ沢出合(13:30) -- 東沢乗越付近(14:30) -- 中房温泉(17:30)

概念図



日誌

前日からの雨の上がり晴天の中の登山だったが中房川の水量は多く苦勞を感じさせるスタート。中房温泉出発して少ししたところの吊り橋にかかると吊り橋に上がる木道が濡れて腐って斜めになっていたので歩いていると滑ってしまいあわや崖に落ちるという場面があったが無事通過、その後は沢道と急登の連続でたびたび川を渡る機会があり水量の多くなったこの日は、助走してホップステップジャンプという状態だったが同行した方はリズムよく岩の上を飛び飛び渡っていった。しばらく歩いていると100メートル先にクマがみえ、お互いクマ鈴をもってこなかったのを後悔した。東沢乗越付近にまで歩いて行ったが、私が毎週末の山行の影響か仕事の影響かでペースが上がらず、時間的にも餓鬼到着はできなく、クマ鈴も携帯しないため夜間登山は危険と判断し下山にはいる。下山道で沢を渡る時着地に失敗して靴内に水が入る場面があったが無事下山して、中房温泉入浴後帰宅した。登山道はあまり人が入っていないのか、荒れかけていて沢道の目印も消えかけている場所、笹をわけていく場面もあった。

人気の燕岳に行く登山道の一つなので入山者も少しはいると想定しての入山だったが、下山後中房温泉で確認すると毎月数えられる程度の入山者で盆以降はいないとのことだった。静かな燕岳登山をしたい方におすすめの道であるが、急登と沢道の連続なので時間がかかるコースで、合戦小屋と通るルートとは違い、中房川の綺麗な水や人のあまり入らないため自然を肌で感じられ、クマやサル、野鳥などの多くの動物にも出会えるので秋の山行で時間に余裕をもって行くと面白いとおもう。

参加者名

改定: 2004.08.24